

「特別の教科  
道徳」  
平成30年度より  
スタート！

道徳の授業、どうすればよい？

# 道徳専科の先生に お聞きしました。

## これまでの道徳教育に足りないもの

これまでの道徳授業の課題は、ズバリ！「子どもが乗ってこない」。これに尽きるのではないのでしょうか。それを、文部科学省は「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある」（平成二十六年十月中教審答申）という表記をして問題提起しています。

もちろん、指導力のある教師が手を尽くすことで、心温まる授業や感動を与える授業を行うことは充分可能です。けれど、その先が肝心。授業後に、「先生、次の時間も続きをやりようよ」「先生、授業中うまく言えなかったから、今ちよっと聞いて」「先生、道徳の授業で勉強したことをやってみたよ」などというように、子どもたちが自ら授

業を創り出そう、考え続けようとする側になることが、これまでにどれくらいあったでしょうか。

## 目指すべき道徳教育の姿

私は道徳専科という「職業上」、普通は週に1時間、道徳の授業を、数時間実践しています。その中で、上記のような子どもたちの声や姿を数多く耳にし、目にすることができま。これはただ単に授業を行う回数が多いからというわけでもなさそうです。例えば「友情、信頼」という内容項目では下記のように、子どもの言葉をつなぎながら本質に迫っていきます。すると、子どもたちが自ら「友だちのよさ、本当の意味」に気づいていき、「今日の授業でこれが分かった」「もっと考えたい」「実際に試してみたい」と言い出します。授業を通して、生きる喜びを実感していくのです。



いいえ。自分たちが思っていた友だち関係より、もっとよいと思います。だって……



そうだね。でも、ミレーとルソーの関係はちよっと違いそうだよ。あまりよい友だち関係ではないのかな。



助け合える。はげまし合える。信じ合える。



「友だちだからできること」って、どんなことがあるかな。

筑波大学附属  
小学校 教諭  
加藤 宣行 先生



光文書院『ゆたかな心 新しい道徳』編集委員。著書に、『道徳授業を変える教師の発問力』（東洋館出版社）、『実践から学ぶ 深く考える道徳授業』（光文書院・共著）他多数。

# 子どもの言葉をつなぐ展開

5年 「ミレーとルソー」

(内容項目：友情、信頼)

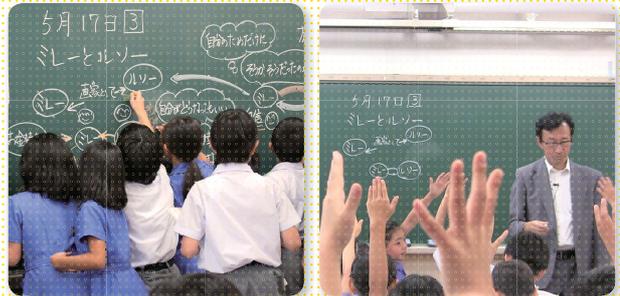
## 導入

「友だちだから」というキーワードを示し、それに言葉を付け足させます。子どもたちは思い思いのことを言うでしょう。これを黒板のいちばん左に書きとめます。この「友だちの条件」が教材の話にも当てはまるかどうかを考えさせながら、物語を読みます。



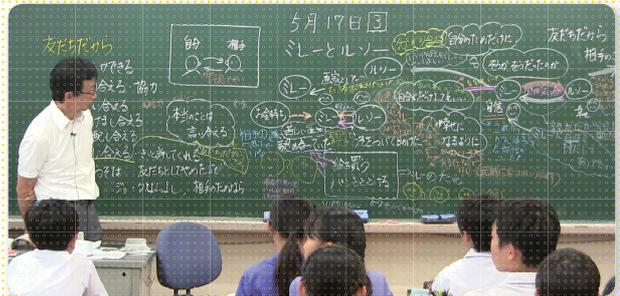
## 展開

教材を読んで感じた「友だちのよさ」と、導入で考えた「友だちの条件」が一致しないことに疑問を感じ、考え始めます。ここで子どもたち自身の問題意識が生まれます。そして、その問題を解くために、主体的な話し合いが始まるのです。



## 終末・発展

最後に、再度「友だちだから」を考えることで、本時の授業から得られた学びを自分の言葉でまとめます。そうすることによって、何が分かったのかを子どもたちが自己評価することができ、授業が終わっても考え続けるようになります。



新刊

『実践から学ぶ  
深く考える  
道徳授業』



B5版 / 160P DVD付き  
定価：2,300円＋税

編著

加藤 宣行

筑波大学附属小学校 教諭

竹井 秀文

東京学芸大学附属竹早小学校 教諭

- 指導の引き出しがドンドン増える！
  - 理論から実践までこれ一冊で
  - すべてがわかる！
  - 授業ポイントDVD付き！
- \* 上記記事内「ミレーとルソー」の授業も収録！



大好評発売中！